

建設企業常任委員会行政視察概要

平成30年7月27日（金）

於 山口市議会 会議室

9：55～11：20

1 調査概要・説明……………山口市定住促進課定住促進担当チームリーダー

「空き家の利活用について」

持続可能なまちづくりのため、地域資源の発掘、磨き上げを通じて、それぞれの地域の魅力を向上させ、それらを効果的にプロモーションすることで、移住定住の促進を図る取り組みとして、空き家バンクや、空き家活用コンペティション事業を実施している。

空き家活用コンペティション事業は、山口市内にある空き家をすぐれた地域資源として活用し、新たな交流を創り出す場とすることで、そこでのさまざまな出会いによって山口市の魅力を感じ、移住定住の促進及び地域の活性化を図るもので、新たな空き家の利活用のモデルが提案されている。

事業内容は、空き家を活用した新たな交流を創り出す提案を求めるコンペティションを実施し、優秀賞2点には、提案内容を実現するために必要な経費の一部（最大150万円）が助成されるというものである。提案は市外在住者でも可能であり、核となるような人材が市内で活動することにより、市外からも人が集まってくるものと考えられている。これまでの事例としては、空き家をリノベーションしモデルハウスとして公開し交流の場を創出する事業、カフェでアーティストの展覧会やワークショップなどを行う事業等がある。

2 主な質疑応答

問 空き家活用コンペティション事業の助成金の額について詳しく教えていただきたい。

答 かかった経費の3分の2が助成される。例えば経費が90万円かかれば60万円が助成されることになる。助成の上限は150万円である。

問 空き家活用コンペティション事業は、移住する予定がない市外の方であっても応募は可能か。

答 山口市民になる必要はない。山口市の空き家を使って、山口市に人が来るような仕掛けを提案してもらえばよい。



問 どのような広報をしているか。また、その予算は。

答 商工会議所と連携してチラシを配付したり、SNSで募集記事を掲載している。特にフェイスブックの広告機能を活用し、「まちづくり」、「古民家」というようなワードを見ている人をターゲットにプッシュ型の広告を掲載している。広報の予算については、チラシのデザインが5万円、フェイスブック掲載にかかる予算が5万円である。

問 空き家バンク制度の成約率が56.3%と高いと感じるが、成約のうち売買と賃貸の割合は。

答 空き家バンクの改修補助金を使うことで、そこまで多額のお金をかけることなく家を購入することが可能であるというよい条件があるため、成約率が高いのではないかと感じる。また、空き家を持ち続けることのリスクを感じている所有者が多いため、8~9割が売買であり、賃貸は2割弱である。

問 空き家バンクの登録に関して、どのような広報をしているのか。

答 今年度から、固定資産税の税額通知書にチラシを同封している。チラシには、危険家屋については撤去等を含めた検討の依頼、利活用可能な空き家については空き家バンク等への登録の依頼を記載している。

空き家バンクを運営している地域では、お盆や正月にだけ帰ってこられる人に情報が届くよう地域の方が独自にチラシを作成し、空き家のポストにチラシを入れているところもある。

以上